

Next

発行所 一般社団法人茨城県建設業協会
建設未来協議会

〒310-0062 茨城県水戸市大町3-1-22

電話 029 (221) 5126 (代)

ホームページ <http://ibaken.or.jp/mirai-kyo/>

Facebook: <https://www.facebook.com/kensetsumirai-kyo/>

発行人 櫻井 俊一

令和7年度 基本方針

建設未来協議会 会長 櫻井 俊一

世界的な物価高騰が続く中、我々建設業も資材価格の高止まりや人件費の上昇により、経営環境は厳しさを増してきております。また昨年4月より働き方改革による時間外労働の上限規制の適用が開始されました。長時間労働の是正や有給休暇の積極的な取得等、一定の成果はありましたが、作業時間の短縮によるタイトな工期設定や、民間工事による週休2日制の実現など、まだまだ多くの課題が残っているのが現状です。今後これらの課題を継続的に改善していく事が、若年層の人材確保に繋がると考えております。

本年1月には、埼玉県八潮市で下水道管の老朽化による道路陥没事故が発生しました。全国的にインフラの老朽化が懸念される中、これらの再整備、そして頻発化する自然災害や家畜伝染病への対応等々、我々地域建設業者が果たす役割は多岐に渡り、その必要性が再確認され、期待されている事と思います。このような状況を踏まえ、我々が社会に貢献していく為には、より一層の会員間の連携と結束が必要になっていくと考えております。

また建設業就業者数が減っていく中、DXやICTによる技術革新を積極的に取り入れながら働き方改革を推進し、次世代を担う若者にこの業界を魅力的に感じてもらえるよう変革していく事が、今我々に求められているのではないのでしょうか。これらの課題解決に向け、当会では会員の皆様に少しでも有意義な情報提供をしていけるよう努めていきたいと考えています。

さて、本年度当会は会員数110名で、3委員会・6地区の事業計画をもとに各事業を進めていくと共に、建設業協会の青年部としての役割を全うしていければと考えております。主な活動といたしましては、6月3日のひたちなか市平磯保育園での砂場クリーン作戦に始まり、7月には建設フェスタの実行委員会を立ち上げ準備を進めていきます。今年のフェスタの開催日は10月4日(土)となりました。今回は30回目の記念の年になり

ますので、限定的となりますが新たな企画を実施しようと考えております。11月には県南地区でのCCI中学生木造倉庫建設体験学習、既に募集が始まっています今年で7回目となる建設フォトコ

ンテスト、そして昨年度から始めました協会本部土木委員会との連携事業である建設業出前授業を開催します。このうち建設業出前授業は、本会会員が講師となり昨年度は県内4つの小中学校で開催しました。今年度はさらに多くの学校で開催し、子供達に建設業の仕事について正しく理解してもらい、将来の職業選択時に建設業を選んでもらえるようこの活動を続けていければと思います。

関東・全国建設青年会議の活動ですが、9月に茨城県主幹で北関東三県青年経営者合同会議を開催し、12月には中部地区主幹の全国建設青年会議が開催されます。その他各発注機関様との意見交換会を積極的に開催し、受発注者間で抱える課題等について、解決の糸口をつかめればと考えております。

本年度の活動も多岐に渡るものとなりますが、会員の皆様には、各事業に対し積極的な参加・協力の程よろしく願いいたします。またこの会を通し、会員相互の親睦を深めると共に、各企業で抱える諸問題等々について情報共有し、少しでも有意義な会となることを期待いたします。

最後になりますが、本年度も当会の運営に対しまして、協会本部・各発注機関の皆様・関係各位の皆様には更なるご指導・ご支援の程よろしくお願い申し上げます。



令和7年度 第33回 定時総会を開催

総務委員会 副委員長 吉原 政文

本協議会の第33回定時総会が令和7年5月16日(金)、ホテル・ザ・ウエストヒルズ・水戸において会員74名出席(委任状33名)のもと開催されました。

冒頭、櫻井会長は「建設業は物価高騰や人件費の上昇、働き方改革による時間外労働の上限規制、週休2日制などの課題が多い。これらの課題を継続的に改善していく事が若年層の人材確保につながると思う。インフラの再整備や災害対応など地域建設業が果たす役割は多岐にわたり、その必要性が再認識され期待されているその為により一層の会員間の連携と結束が必要となっていく」と挨拶しました。

続いて、(一社)茨城県建設業協会石津会長が「建設未来協議会の皆様には建設業体験学習や砂場クリーン作戦、出張授業など担い手確保に向けた建設業の魅力発信積極的に取り組んでいただいている」とした上で、「若者が夢を持って将来を託せる魅力的な建設業となり地域社会に貢献していけるよう建設業協会と未来協議会が一丸となって活動してまいりたい」と述べられました。

その後、規約により櫻井会長が議長に指名され、次の議案について審議し原案通り可決されました。

- 第1号議案 令和6年度事業報告の件
- 第2号議案 令和6年度収支決算の件
- 第3号議案 令和7年度事業計画の件
- 第4号議案 令和7年度収支予算の件



総会では25年度事業計画などを承認した



石津茨建協会長



和賀県土木部長



左近常陸河川事務所長

議事終了後、来賓祝辞で茨城県土木部和賀正光土木部長が「建設業が地域にとってなくてはならない存在であり継続的に発展していけるよう、皆さまたともに生産性向上や職務環境の改善にも努めていきたい」と話され、続いて常陸河川国道事務所の佐近裕之所長が「昨今の少子高齢化の中、若手の採用は喫緊の課題。多くの方々に建設業の魅力や重要性を理解いただくことが極めて重要。国交省としても積極的に支援していきたい」と述べられました。

懇親会では多くのご来賓の方が出席のもと、卒業生及び新規入会者の挨拶が行われ、盛況のうちに幕を閉じました。

第9回 砂場クリーン作戦を遂行

地域貢献活動委員会 副委員長 大貫 可奈以

令和6年5月15日(水)、今回で9回目となる砂場クリーン作戦を水戸市の「どんぐりの友保育園」にて開催いたしました。コロナ禍での休止期間を経て2022年より再開し、今回は会員約30名と園児(年少～年長)約35名が参加し、盛大に開催することができました。

この企画は、これから未来へ羽ばたいていく次世代の子ども達に、安全で衛生的な砂場環境で遊んでもらうことを目的として2014年から開始した取り組みです。また、子ども達が直接体験することで得られる達成感が成長につながるという観点もふまえ、地域貢献活動の一環として実施しています。

砂場清掃の作業内容としては以下の工程で進めました。

1. 重機・人力スコップで砂を場外へ掘り起こし
2. 電動振るい機・振るい網(人力)による異物除去等の振るい分け
3. 振るい分けによって目減りした砂の補充
4. 無害な消毒液散布による除菌・抗菌

今回は、「振るい網による振るい分け作業」を園児達に体験していただきました。準備段階ではカラーコーンやバーなどで安全管理を行い、資材や重機を搬入しました。間近で見る大きな機械や見慣れない資材に、作業前から園児達も興味津々な様子でした。スコップとバケツを手に熱心に何回も砂を運び入れてくれたり、バケツに山盛りの砂を入れてそーとこぼさないように運搬してく



建設フェスタでも人気だった配管ブロック組立



砂をふるい機にかけた

れたり、異物などがないか念入りに確認してくれたりなど、園児たちそれぞれ思い思いのやり方で作業を楽しむ姿が印象的でした。

また、35名の園児を3班に分けて砂場の清掃活動だけでなく、配管ブロックの組み立てや昇降機による周辺観覧も体験していただきました。当日は最高気温が25度に迫る快晴で、まさしくこのイベントに相応しい日和でした。各体験ブースには日よけのテントやミスト付き扇風機を設置して熱中症対策も行いました。お天気にも恵まれて、事故やケガなどなく進められたことに感謝と安堵の気持ちでいっぱいのお砂場クリーン作戦となりました。

作業後、手塚園長からは「子どもたちは準備中から楽しみにしていました。普段はお散歩で建設現場を見るくらいなので、ここまで近くで見たり触れたりすることは初めてです。とても貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました」と感謝のお言葉をいただきました。地域貢献活動委員会として今後もより一層、地域の皆様のために活動できるよう尽力してまいりたいと改めて身が引き締まる思いがいたしました。

最後に今回の活動にご協力いただいた「どんぐりの友保育園」様に心より感謝を申し上げます。また、地域貢献活動委員会を中心に参加いただきました多くの会員の皆様に厚く御礼申し上げますと共に、今後も引き続き地域貢献活動への変わらぬご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

第29回 建設フェスタ2024を開催

地域貢献活動委員会 委員長 高野 弘康

第29回目となる建設フェスタを、令和6年10月4日(土)に笠松運動公園で開催しました。小雨降る曇天の中での開催は久しぶりだったので不安な中、開会式が始まりました。しかしその心配は時間を追うごとに増えていく来場者の方、色々な催事に並ばれる方々を見ることで一気に消え去りこのフェスタの人気を実感したことを覚えています。

今回も例年同様、重機の運転体験や試乗には長蛇の列が出来ていました。高所作業車のリフトアップされた架台からの眺めは、保護者の方々も喜んでいただけるほどの景色だったと思います。また、予約開始後すぐに満員となってしまいうほど大人気の消波ブロックの製作は、コンクリート構造物が出来上がる過程を実際に五感で感じられる体験で、親子そろって、建設工事におけるものづくりの楽しさを直で感じていただける催しだったと思います。

前回から始まった重機ショーは、来場者の方に人気が高く今回少しでも多くの方々に見学してもらえよう回数を増やし実施しました。前回以上に見学して下さる方々が増え、開始前から席取りする来場者をみて建設フェスタの目玉になったのを実感しました。また、同じ場所での親子共演丸太切りも実施し、体験者の方々に移動しなくと



もショーを楽しんでいただけるよう工夫もしました。回を重ねるごとに参加を希望する来場者の方々増えていき、慌ただしく受付をする未来協議会員が自然と笑顔になる姿が印象的でした。重機ショーとともに前回から始まった配管ブロックゲームにも多くの来場者の方々に来ていただき、スタッフの数が不足し途中で応援をお願いするほどの盛況ぶりでした。

最後に、この建設フェスタが今や国内最大の建設イベントとなった理由は、毎回工夫を凝らし昨年よりも喜ばれる催しにしようという反省を生かして今回は更により良いものにしようという、諸先輩方から現在の関係者各位へ伝承している気持ちが出来たことによるものだと思います。

これからも現状に満足することなく、限られた予算の中で国内最大のイベントに恥じない最良の催しになるよう、常に安全・改善の心構えで全力を尽くしたいと思います。建設フェスタという大イベントの開催にご尽力いただいた茨城県土木部をはじめとする発注者各位、参加・協賛団体及び協力企業関係各位の皆様には御礼を申し上げます。子ども達の夢を育み、笑顔にできるこのイベントが出来たことに心から感謝いたします。



中学生がものづくりの楽しさ体験

水戸市立内原中学校に倉庫建築

水戸地区 幹事 梅沢 匠

令和6年度のCCI茨城（茨城県魅力ある建設事業推進連絡会議）の事業において木造倉庫建築体験、測量体験、ドローン体験、重機体験を、10月21日(月)と11月14日(木)水戸市立内原中学校の2年生124人を対象に開催しました。

1日目は、基礎の鉄筋をまとめるためハッカーを使った結束作業、ドローンの操縦、5mを目標に転がしたボールをトータルステーションで計測、4tコンバインドローラーの運転を体験していただきました。

2日目は、構造や仕組みを学んでもらうために、重い材料を担いで組立てた柱に壁材をはめ込み、インパクトドライバーでビスの打込みの体験をしていただきました。また測量、ドローン、重機体験を1日目と同様に体験しました。

倉庫完成後の令和6年12月18日に引き渡し式を開催しました。主催者側として検査指導課 技佐兼課長補佐（技術総括）小沼 志乃武氏、未来協議会会長 櫻井 俊一氏、水戸市立内原中学校校長 折本 正巳様、生徒代表 池田 美禮さんが出席し、挨拶をいただきました。

参加した生徒からは、「建設業の楽しさを感じました。体験学習によって将来の職業の選択肢の



一つになりました」と感想をいただきました。

先生からも「測量機器の精度に驚きました」と建設業の凄さを知っていただけて、開催した意義を感じることができました。

この体験を通して、生徒たちが少しでも建設業へ興味を持ってくれたことと思います。

また、この経験と熱量をもって若い世代へ我々業界のことを伝えてく努力を続けていこうと思います。

最後に、この事業に参加協力していただきました各関係者様に心より感謝申し上げます。



いばらき建設フォトコンテスト2024を開催

社会コミュニケーション委員会 副委員長 中川 喜夫

“いばらき「建設フォトコンテスト」”は、一建設業の魅力をもっと多くの方に知っていただきたい—そんな思いから始まりました。「建設のある茨城の風景」と「人と建設のつながり」の2部門を設け、昨年度は全国から740点もの応募が寄せられ、入賞作品として50点が選出されました。これらの作品は、建設フェスタ2024での展示に加え、イーアスつくば様・イオンモール水戸内原様のご協力のもと開催された作品展で、多くの方にご覧いただきました。このように、お子様連れのご家族をはじめ、地域の皆様に直接作品を楽しんでいただけることは、何よりも嬉しい瞬間です。また、受賞作品はInstagramやFacebook等でも紹介しているほか、茨城県建設業協会のカレンダーにも採用され、毎年多くの皆さまからご

好評をいただいております（昨年度は3,500部を815カ所へ配布）。これからも建設業と社会をつなぐ役割を担い、皆さまに親しまれるフォトコンテストを続けてまいります。今後とも温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。



イーアスつくばで建設業体験会

社会コミュニケーション委員会 委員長 田口 富之

令和6年11月9日(土)に第2回建設業体験会を建設フォトコンテスト・建設現場を描いた図画コンクールの展示会会場でもあるイーアスつくばにて実施しました。建設業体験会は次世代の担い手となり得る子供たちに高所作業車や最新の重機に乗ってもらうことにより、建設業に対する理解を深め、更なる興味を持ってもらうために実施しております。今回の建設業体験会は事前告知がなかったにもかかわらず503名（子供193名、保護者310名）もの方が訪れてくれました。

茨城県労働局の発表によると令和7年3月末現在における高校卒業の生徒について、建設業の求人数は1574人に対して内定者は247人となり、求人数に対して内定者の割合は15.7%と、まだまだ若年者の入職が少ないことは間違いありません。建設業体験会や令和6年度より開始された出前授業をできるだけ多くの地域で実施していくこ



とにより、建設業の魅力を多くの子供たちに伝え、将来の職業選択の一つとして「建設業」が選ばれるような活動を増やしていきます。

結びにこの建設業体験会にご協力賜りましたイーアスつくば、日立建機日本株式会社、皆様に心から御礼申し上げ、報告にかえさせていただきます。

県と共催 瑞竜中2年生に出前授業

高萩・太田地区 幹事 石井 貴之

令和6年11月15日(金)常陸太田市立瑞竜中学校を会場に同校の2学年(69名)を対象とした出前授業を行いました。

今回、県(茨城県常陸太田工事事務所)との合同出前授業を初めて共催し、若手の県職員が講師として参加してくれました。講師として建設業の概要について紹介しました。

授業ではまず常陸太田工事事務所の若手県職員がクイズや動画を交えながら道路の新設改良工事や拡幅工事、橋梁工事、河川工事、砂防工事などを紹介し、また「イマドキの工事の進め方」とし



て遠隔臨場を用いたデモンストレーションも行いました。その中でも道路の拡幅工事では、常陸太田市の旧水府地区にある竜神大吊橋前道路の盛土に使われている実際の発泡スチロールが披露されました。生徒たちからは「大きい」や「本当の発泡スチロールだ」など歓声や驚きの声が挙がっていました。

続いて未来協議会からは「安心安全なまちをいつまでも」をテーマに自然災害とその対策などを説明し、その中でも水害を想定して瑞竜中学校を中心としたハザードマップに色が染まってない状態で渡し、グループに分かれ相談しあいながら浸水想定範囲を着色し実際のハザードマップと照らし合わせて自分たちの住む地域の安全性や危険な箇所を勉強しました。今回ご協力いただいた同校の古内校長からは「建設業については我々もわからないことが多く、今回の出前授業を開催してよかったと思う。生徒の職業選択の一助となれば」とコメントもいただきました。

今後とも県との共催を続け、建設業とはなにかを生徒たちに知ってもらうこと、生活の身近なところに建設業があることを知ってもらう目的で、出前授業を続けていきたいと思います。

児童養護施設へチャリティー金を贈呈

本年も社会貢献活動の一環として、令和7年3月6日に常陸太田市内で児童養護施設を運営する社会福祉法人誉田会(椿忠彦理事長)へ当協議会のチャリティーゴルフコンペ収益金を寄付しました。また「いばらき建設図鑑」を子供たちへ贈呈しました。

児童養護施設への寄付は今回で7回目となります。

寄付金を受け取った誉田会の片根志雄理事からは「大変ありがたい限りです。子供たちの意思を尊重しながら、大切にに使わせていただきます」とお礼の言葉を頂きました。



円滑な業務へ行政機関と意見交換会

常総国道事務所・北首都国道事務所

県南地区 幹事 福智 勇人

令和6年12月9日(月)、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所において、意見交換会を開催しました。

常総国道事務所 中谷文治事務所長、北首都国道事務所 後閑浩幸事務所長をはじめとする幹部職員の方々にご出席いただきました。

議事では関東地方整備局から主要事業の概要説明・進捗状況について説明があり、建設未来協議会から、広報誌(NEXT)や建設フェスタ2024・砂場クリーン作戦・いばらき建設フォト

コンテスト・建設体験学習・各地区会における見学会など様々な活動について報告しました。

続く意見交換では、積算・入札・契約・施工等での質問及び改善要望などについて意見を交わし工事の円滑な施工、働き方改革・建設DXの推進、週休2日制、人材の確保等と共に、小規模工事ICT施工活用に関する地域の実情など、踏み込んだ内容の意見交換を活発にさせていただきました。

発注者及び建設未来協議会からも忌憚のない意見が出て、とても有意義な意見交換会となりました。

下館河川事務所

県西地区 幹事 菊池 健郎

令和6年11月27日(水)下館河川事務所との意見交換会を開催しました。

下館河川事務所からは青木孝夫事務所長をはじめ多くの事務所関係者の方々にご参加いただきました。冒頭の挨拶で青木所長は、労働時間や休日日数の確保担い手確保のための働き方改革という課題について述べられました。建設未来協議会の櫻井会長からは「資材価格の高騰や人件費の上昇、時間労働の上限規制、人材の確保等、建設業界を取り巻く経営環境が厳しくなっており、その中でも特に人材確保が重要な課題であり、未来協議会の様々な人材確保の取組みを通じて魅力ある建設業を幅広い年齢層に周知していきたい。これらの諸課題の解決に向け発注者様のご理解とご協力を賜り、発注者・受注者でより良いパートナーシップを築いていければと思っています」と述べました。

議事では、下館河川事務所より令和6年度の事

業概要の説明、関東地方整備局の取組みとして「働き方改革・担い手確保に向けた主な取組」「品格法の改正と運用方針の策定」「直轄工事における盗難被害状況」「工事契約書における請負代金額変更の規定(スライド条項)」について説明していただき、未来協議会側からは設立の目的や会員数などの「未来協議会の組織について」、建設フェスタやボランティア活動などの「地域貢献活動について」、建設フォトコンテストなどの「イメージアップに向けた取組みについて」、インターンシップや現場見学会などの「担い手確保に向けた取り組みについて」、その他、発注者との意見交換会やチャリティー金贈呈などの活動等を紹介しました。

その後、質問・要望事項をフリーディスカッション形式にて行い、同じ熱量を持ってとても有意義な意見交換会ができました。

高萩工事事務所・太田工事事務所

高萩・太田地区 幹事 石井 貴之

令和6年12月3日(火)茨城県常陸太田工事事務所において、茨城県高萩工事事務所・常陸太田工事事務所合同意見交換会を開催しました。

常陸太田工事事務所から鈴木所長、高萩工事事

務所からは青野次長兼道路整備課長をはじめとする6名の方にご出席いただきました。

はじめに、高萩・太田地区の石井幹事から「今回の意見交換会を機に今後受・発注者がお互いに

より良い関係となるよう、有意義な意見交換会となれば」と、続いて鈴木所長からは「活発な意見交換会をさせていただきたい。受注者と発注者の立場は違うが様々な課題に対応するため、皆様のご理解とご協力をお願いしたい」と挨拶をいただきました。

その後、建設未来協議会の活動内容について報告し、次に常陸太田工事事務所の幸加木次長が県

の最近の取り組みについて話し、青野次長兼道路整備第一課長が令和5年の台風13号復旧状況について情報提供をいただきました。

意見交換では『キャリアアップシステムについて』『ICT施工について』『価格の変動・単品スライドについて』などの質疑応答を行い、有意義な意見交換会を行うことができました。

茨城県土木部

総務委員長 河野 真

令和6年11月20日(水)茨城県建設業協会5階会議室において、茨城県土木部と建設未来協議会の意見交換会を開催しました。茨城県土木部からは検査指導課より小沼志乃武技佐兼課長補佐(技術総括)、織裳幸子課長補佐、中島孝次課長補佐をはじめ8名の方にご出席頂きました。

意見交換会は、活動内容の報告で建設未来協議会のいばらき「建設フォトコンテスト」や建設フェスタについて報告し、茨城県土木部から県内の盗難状況、盛土規制法についての資料を提供して頂き、質疑応答やフリーディスカッションを行いました。

建設業の昨今の課題や現状報告、今後の課題について討論し、建設未来協議会会員が日頃抱えている問題・課題についての意見を交わしました。



今後ともこのような機会を通して建設業の様々な課題を官民一体となり、解決に取り組む必要があります。会員の皆様におかれましてもこの意見交換会が1つのきっかけとなり問題の解決につながるようにご協力お願い致します。

小学生とベンチ付きテーブルを製作

鹿行地区 幹事 鏑木 大輔

令和6年12月18日(水)鹿嶋市立波野小学校でベンチ付きテーブル製作小学校体験学習を開催致



しました。

6年生 72人と当地区会員13名を4つのグループに分け、電動工具(インパクトドライバー)を用いて、ベンチ付きテーブルを製作しました。初めての電動工具に戸惑う生徒が殆どで、当地区会員指導のもと一生懸命作業に当たっていました。

これから卒業を控える6年生のみなさんの良い思い出になって頂ければと思うと共に、今回の体験学習を通じてモノづくりの楽しさを体感して、建設に携わる職業に興味を持ち、建設業が将来の選択肢の一つになって頂ければと思います。

第29回 全国青年会議全国大会を開催

29回目となる全国建設青年会議全国大会が令和6年12月6日、リーガロイヤルホテル東京（東京都新宿区）にて関東ブロック主幹のもと開催されました。「シン・建設青年人から意識を変え、行動を～」をテーマにした大会には、全国9ブロックから若手経営者ら約520名が参加しました。

最初に大会会長の辻広昌平氏に、続いて森昌文

首相補佐官と高橋克法副国土交通相に挨拶をいただきました。

大会では、「国土交通省における建設現場の働き方改革、インフラDXの取組」と題し国土交通省の廣瀬昌由技監が特別講演を行ったほか、「シン・建設青年人」は各ブロックから代表者が登壇し、自企業の取り組みや、地域単位での活動事例、新しいチャレンジなどについて紹介しました。

関東建設青年会議を開催

令和6年9月27日、THE MARK GRAND HOTEL（埼玉県さいたま市）にて、令和6年度通常総会ならびに国土交通省関東地方整備局との意見交換会を開催しました。当会議は、関東地方各県建設業協会に所属する若手経営者により組織されています。

総会では、会員相互の情報発信・共有を掲げた

事業計画(案)や昨年度の事業報告について報告・承認されました。また関東ブロック主幹で開催する全国建設青年会議の内容を確認しました。

続けて、同会場で関東地方整備局幹部と当青年会議で、建設業界を取り巻く課題や新技術・施策などに関して意見を交わしました。

北関東三県建設業青年経営者会議

群馬県

令和6年9月4日、ホテルグランビュー高崎（群馬県高崎市）において、「北関東三県建設業協会青年経営者等合同会議」を開催し、茨城県、群馬県、栃木県の北関東三県建設業協会の若手経営者たちが参加しました。

会議では、地域貢献活動や人材育成事業、発注者との意見交換会など、それぞれの事業について報告したほか、働き方改革に関する各県の状況や建設ディレクターの活用などについて意見を交換しました。

本会議は、各県の建設業協会に所属する若手経営者たちが建設産業のあるべき姿と方向性を議論・検討するとともに、各県の活動内容を把握する目的で、平成24年度に栃木県を主幹としてスタートしました。継続的な開催により、各県の関係はより一層深まっていると感じます。今後も親交を深めるとともに、お互いが抱える問題・課題について解決の糸口が見えるような有意義な会議を継続して開催していければ幸いと考えております。

委員会紹介

総務委員会

担当副会長 長山朋之（長山工業㈱）

委員長 河野真（㈱河野工務店）

副委員長 平山悠（㈱水府工務店）・吉原政文（吉原建設工業㈱）・石津弘敏（常総開発工業㈱）・田所大和（㈱ワイエスケイ）・仁平大介（㈱仁平工務店）

委員 足立憲史（足立建設㈱）・桐原裕一（㈱桐原工務店）・長谷川優子（平和建設㈱）・若松亜紀子（菅原建設㈱）・菊池康平（菊丸建設㈱）・荒木田泰治（環境保全事業㈱）・大内榮樹（㈱大栄建設）・大久保智弘（㈱若葉工務店）・金澤陽治（㈱金沢建設）・益子正太（㈱益子）・石津松吾（石津産業㈱）・鎗木大輔（鎗木建設㈱）・下館雄樹（㈱波崎建設）・飯塚亮平（飯塚建設㈱）・細谷周平（大昭建設㈱）・松尾彪（松尾建設㈱）・松浦征典（松浦建設㈱）・田林剛（勝工業㈱）・新井雅貴（㈱アロウズ）・白田諭（白田工建㈱）・宮本恭成（石塚産業㈱）・柴信一（旭建設工業㈱）・中山英士（のだや建設㈱）・松本浩治（㈱新栄開発）・山下祐史（山下工業㈱）

社会コミュニケーション委員会

担当副会長 小倉健太郎（㈱小倉工務店）

委員長 田口富之（㈱田口工務店）・鈴木亮（北都建設工業㈱）

副委員長 生田目憲明（㈱進栄）・福智勇人（福智建設工業㈱）・赤塚剛（㈱赤塚土木興業）・齋藤誠（㈱斉藤建設）・中川喜夫（中川ヒューム管工業㈱）・中山英俊（㈱染谷工務店）

委員 足立憲史（足立建設㈱）・池田大輔（コスモ総合建設㈱）・梅沢匠（㈱福田工務店）・大貫可奈以（㈱大貫工務店）・中井将史（㈱中井工務店）・中野陽平（㈱根本組）・石井貴之（㈱石井建設）・大須賀浩平（㈱大須賀工務店）・大森裕一郎（大森建設㈱）・藤井雅成（㈱丸二工務店）・澤田進一（澤田建設㈱）・田崎翼（㈱田崎技術）・佐々木祐也（常磐建設㈱）・寺田健一郎（㈱羽原工務店）・細谷貴弘（細谷建設工業㈱）・根本博行（㈱コウキ建設）・松尾彪（松尾建設㈱）・松浦征典（松浦建設㈱）・浅野麻由美（浅野物産㈱）・磯邊集（㈱アレスコ）・成島隆平（成島建設㈱）・新井雅貴（㈱アロウズ）・石嶋尚（㈱石島建設）・小薬直也（㈱小薬建設）・堀江平（堀江産業㈱）・野口貴生（野口機設工業㈱）・新井邦幸（㈱新井建設工業）・印出正人（㈱丸健工業）・小川敦史（小川建設工業㈱）・染谷真一（㈱染谷建設工業）・高橋拓也（㈱高橋芝園土木）・中村亮太（中和建設㈱）

地域貢献活動委員会

担当副会長 内藤裕一郎（㈱内藤工務店）

委員長 高野弘康（㈱高野工務店）

副委員長 秋山正人（㈱秋山工務店）・大貫可奈以（㈱大貫工務店）・若松亜紀子（菅原建設㈱）・瀬谷政行（瀬谷建設㈱）・川崎和洋（㈱川崎建設）・伊東優考（㈱伊東建設）・浅野麻由美（浅野物産㈱）・青木敏紘（㈱青木建設）

委員 梅沢匠（㈱福田工務店）・大内わかこ（㈱大内工務店）・桐原裕一（㈱桐原工務店）・栗原真由子（㈱葵建設工業）・仙波秀教（仙波建設㈱）・長谷川優子（平和建設㈱）・菊池康平（菊丸建設㈱）・益子朋（益三建設㈱）・石井貴之（㈱石井建設）・鈴木欽一（㈱鈴木組）・平山悠（㈱水府工務店）・浅川宗典（㈱浅川建設）・井上将人（㈱井上工務店）・大須賀浩平（㈱大須賀工務店）・清水亮（㈱田本工務店）・鶴田大海（㈱鶴田組）・中島真弓（㈱中島工務店）・橋本将一（橋本建設㈱）・八木満津雄（㈱八木組）・齊藤卓也（㈱斉藤建設工業）・新堀進也（㈱新堀産業）・根崎亮（㈱根崎工務店）・羽生貴之（㈱羽生工務店）・藤枝賢一（藤枝建設㈱）・堀江光（㈱光建）・犬塚正一（㈱和城産業）・大川雄生（㈱サンワ興業）・保立明宏（㈱宏洋）・松崎祐二（松崎建設㈱）・成島隆平（成島建設㈱）・福智勇人（福智建設工業㈱）・白田諭（白田工建㈱）・仲川将大（㈱仲川建設）・大坂寛暁（大坂建鋼㈱）・菊池健郎（㈱菊池土建）・笹生安孝（㈱浅丘工業）・鈴木匡明（鈴木鉄工建設㈱）・端孝平（㈱端工務店）・中山英士（のだや建設㈱）・宮本恭成（石塚産業㈱）・本川朋之（本川建設工業㈱）・飯田雄介（㈱俊光建設）・並木唯久（㈱並木建設工業）・山下祐史（山下工業㈱）・根本昌義（㈱根本工務店）

※委員会兼務のため、一部名前が重複しています。

令和7年度 役員名簿

No	地 区	役 職	氏 名	商 号
1	県 南	会 長	櫻 井 俊 一	櫻井建設工業(株)
2	大宮・大子	副会長(総務担当)	長 山 朋 之	長 山 工 業 (株)
3	水 戸	副会長(地域貢献活動担当)	内 藤 裕一郎	(株)内藤工務店
4	県 西	副会長(社会コミュニケーション担当)	小 倉 健太郎	(株)小倉工務店
5	大宮・大子	総務委員長	河 野 真	(株)河野工務店
6	大宮・大子	地域貢献活動委員長	高 野 弘 康	(株)高野工務店
7	水 戸	社会コミュニケーション委員長 (社会連携担当)	田 口 富 之	(株)田口工務店
8	県 南	社会コミュニケーション委員長 (担い手育成・広報・ソーシャルメディア担当)	鈴 木 亮	北都建設工業(株)
9	水 戸	地区幹事	梅 沢 匠	(株)福田工務店
10	高萩・太田	地区幹事	石 井 貴 之	(有)石井建設
11	大宮・大子	地区幹事	大 内 榮 樹	(株)大栄建設
12	鹿 行	地区幹事	鎚 木 大 輔	鎚 木 建 設 (株)
13	県 南	地区幹事	福 智 勇 人	福智建設工業(株)
14	県 西	地区幹事	菊 池 健 郎	(株)菊池土建
15	水 戸	監 事	根 本 昌 義	(株)根本工務店
16	水 戸	監 事	若 松 亜紀子	菅 原 建 設 (株)
17	県 西	監 事	青 木 敏 紘	(株)青木建設

●令和6年度 新規入会者

No	地 区	氏 名	商 号
1	大宮・大子	大久保 智 弘	(株)若葉工務店
2	大宮・大子	荒木田 泰 治	環境保全事業(株)
3	県南(竜ヶ崎)	細 谷 周 平	大昭建設(株)
4	県西(筑 西)	小 薬 直 也	(株)小薬建設
5	県西(常 総)	笹 生 安 孝	(株)浅丘工業
6	県西(常 総)	本 川 朋 之	本川建設工業(株)

●卒業された皆さん

No	地 区	氏 名	商 号
1	水 戸	荒 川 繁 美	水戸土建工業(株)
2	水 戸	小 池 良 一	(有)小池工務店
3	水 戸	横 田 修 一	(株)横田建設
4	高萩・太田	鈴木 達 二	鈴 縫 工 業 (株)
5	高萩・太田	須 田 要 介	日立土木(株)
6	高萩・太田	井 坂 陽 介	(株)井坂組
7	鹿行(鉾 田)	菅 谷 一 成	(有)菅谷工務店
8	鹿行(潮 来)	飯 島 新 史	飯 島 建 設 (株)
9	鹿行(潮 来)	城 内 浩 和	(株)大平工業
10	県南(竜ヶ崎)	栗 山 秀 樹	栗 山 工 業 (株)
11	県南(竜ヶ崎)	櫻 井 郭 実	(有)櫻文工業
12	県南(土 浦)	島 崎 崇	北 条 工 業 (株)
13	県西(筑 西)	鮭 川 和 男	飯田建設興業(有)
14	県西(常 総)	串 田 一 仁	(株)クシタ建設

編集後記

4月13日に大阪・関西万博が開催されました。数か月前まで会場建設工事の遅れが指摘され、「本当に開催できるのか？」といぶかしがる声もありながらも無事、開幕に間に合っただけで良かったと思います。

日本では、過去に5回の万博が開催されており、1回目はいわずと知れた日本万国博覧会(大阪万博)ですが、個人的には、1985年(昭和60年)3月17日～9月16日の184日間にわたって筑波研究学園都市で開催された「国際科学技術博覧会(つくば万博)」が万博という印象が強いです。

日本を含む48カ国と37国際機関が参加し、総入場者数は2,033万人。「人間・住居・環境と科学技術」をテーマに、科学技術に対する国民の理解向上や、科学技術を通じた国際親善の貢献などに大きな成果をあげました。当時は5歳でしたが万博に行った微かな記憶の光景は近未来的でワクワクした経験だったのを憶えています。

建設業界でも建設DXの推進により、さまざまな現場で先端技術が導入され建設プロセスが変わってきたことを実感している方もいるのではないのでしょうか。今後の建設業界は他業界とシームレスに連携され、建設現場でもAIやVRなどの先端技術が日常的になるのでしょうか。

次に日本で万博が開催される頃には、更なる技術革新や世情の変化によって建設業界の未来も大きく進歩していることに期待しています。

(E. O)